

資料に親しむ会 令和6年度第6回

「将棋の愛好者たち」

京都府立京都学・歴彩館職員が「将棋の愛好者たち」を、下記のとおり開催しました。

記

- 日 時 令和6年10月16日（水）午後2時30分～3時30分
- 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール
- 参加者数 36名
- 内 容 最初に、大将棋、中将棋、小將棋と変遷してきた将棋の種類について解説した。その後、平安時代から江戸時代初期にかけての記録や文芸作品から将棋の歴史を紹介した。
- 参加いただいた方々のご意見 （参加者アンケートより）
 - ・将棋の歴史を楽しく面白く学ばせてもらえ、興味が深まりました。
 - ・資料の豊富さが大したもの。将棋の歴史がよく分かりました。ルールの変化もあったことが分かり、興味深かったです。
 - ・将棋が趣味なので楽しめました。
 - ・将棋は日本で考案されたものだと思っていました。中国から入ってきて日本独自に発達していったことが分かりました。興味深い講座でした。

（講座の様子）

